慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	『古今和歌集』版本諸版一覧
Sub Title	
Author	川上, 新一郎(Kawakami, Shinichiro)
Publisher	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫
Publication year	1981
Jtitle	斯道文庫論集 (Bulletin of the Shidô Bunko Institute). No.18 (1981.) ,p.443- 467
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	麻生太賀吉大人追悼記念論集 挿表
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00106199-00000018-0443

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

『古今和歌集』版本諸版一覧

川上新一郎

はじめに

近世に刊行された『古今和歌集』の版本はおびただしい数に上る。従来それらについてふれたものとして、福井久蔵氏『大日本歌書綜覧』（上巻七一二―一七頁、大15刊）、西下経一氏「古今集伝本の系統論」（「国語と国文学」昭4・1）等がある が、版本本文はほとんど全て貞応二年定家本の系統に属する流布本であることもあって、以後まとまった研究はほとんど行なわれていない状態にある。しかし、近世における『古今和歌集』版本の利用状況を考えれば、全く放置しておくわけにもいかないと思われる。

本稿はそのような点に鑑み、『古今和歌集』版本の版種の一覧を試みたものであるが、形態上の記述に終始し、当然触れるべき本文内容にまで及ばなかった。その点については他日を期することにする。

凡例

一、本稿で扱うのは、近世及び明治初年刊行の『古今和歌集』整版本の単行書（完本）で、合刻本（『二十一代集』『三代集』等）や注釈書は原則として取り上げない。

一、排列は刊年順とし、各版を算用数字を付して区別し、その中を更に、早印より後印になるに従ってアルファベット（a b c）を用いて排列記述する。刊年不明の版は、後印本中に年紀をもつ刊記があれば、その最も早いものによって、先の年代順排列の該当個所に置き、ない場合は、後に一括した。

例　10刊年不明本は後印本に「宝暦九年」の年紀を持つものがあるので、宝暦九年の位置に排列してある。

一、記述に当っては、管見の同版同刊記本中、最も原装に近い一本を選び、書誌的事項を記した。主な記載事項は次の通り。

所蔵・函架番号・刊年・印年・刊行書肆・書型・冊数・表紙・題簽・外題・匡郭寸法（ない場合は印面高さ）・行数・句読点濁点訓点等の有無・版心・丁付・『古今和歌集』両序以外の序跋・刊記。

一、なお、次に掲げる諸点は、版本のほとんどに共通であるので、特記事項のない限り記載を省略した。

1、楮紙袋綴。
2、縦界線なし。
3、二冊本の場合、上冊に巻十まで、下冊に巻十一以下を収める。
4、首に仮名序、尾に墨滅歌・真名序を有する。
5、内題「古今和歌集」（異体字及び「和」の代りに「倭」とあるものを含む）。

一、書誌的記述の後に、その他注意すべき諸点を〔備考〕、同版同刊記本の所在を〔所在〕として注記する。

一、本稿の性格上、書入・印記の有無についてはこれを省略した。

一、なお、『国書総目録』に記載されているもののうち、元禄三版、文政一〇版は未見。また、元禄六版、宝暦六版、寛政一一版、明暦元版、文化一〇版、弘化元版は所在不明、『国書総目録』の誤記等により、調査の結果、本稿の記載に加えるべきものは存在しないことが判明した。

一、版種の概観を分りやすくするため、末尾に版種の一覧表を付した。算用数字・アルファベットは本論と一致させてあるので対照されたい。

一、また同じく末尾に、福井久蔵氏『大日本歌書綜覧』（以下『歌書綜覧』と略記）及び西下経一氏「古今集伝本の系統論」（同じく「系統論」と略記）に掲げられた諸版と本稿で扱った諸版との対応を注として示した。未見のもの、本稿のいずれの版と対応するか不明のものもあるが、その点は今後の課題としたい。

1承応三年以前刊本

a 蓬左文庫蔵（中—二一六）　大合一冊

刊

縹色表紙打付書「古今集」。四周単辺（二一・二×一五・六糎）、十二行。句読点濁点等なし。版心「古今上（下）（丁付）」。刊記なし。

〔備考〕本書を「承応三年以前刊本」と称するのは、以下のように承応三年の刊記を持つ後印本が存在するためである。

b 家蔵　大二冊

刊承応三年印　京　西村又左衛門

縹色表紙左肩題簽剝落、打付書「古今和歌集上」「□集下」。刊記、終丁ウ、真名序の後、子持枠木記中に『承応甲午仲春吉旦／寺町誓願寺前／西村又左衛門新板』。

c 竜谷大学大宮図書館蔵（九一一、二三—二三）　大二冊

刊延宝六年修　唐本屋喜右衛門

藍色表紙中央題簽上冊「新板古今和□」下冊剝落。bより匡

郭、版心の柱刻を削る。刊記、bの木記中を削り「延宝六戊午(ママ)年正月吉日／唐本屋／喜右衛門刊」と入木。

〔備考〕本書の上冊と後述3寛文三年刊本の下冊を組み合わせた後印本がある。3c参照。なお、西下経一氏『古今集の伝本の研究』(六〇頁、昭29刊)に「延宝六年(唐本屋二十一代集)」とあるのは本書のことか。本書を含む二十一代集は管見に入らない。

〔所在〕書陵部(二一〇—六七六)、東京大学総合図書館(E三一—一六〇二)、岡山大学付属図書館(P九一一—七九池田、下冊のみ)

2万治三年刊本〔西道智〕首書本

a東北大学付属図書館狩野文庫蔵(四—一〇四九五)

万治三年刊〔京〕本屋七兵衛　大合二冊

濃紺色市松文様空押表紙左肩題簽「(首書)古今和哥集三四五(十一—十二)」。(六冊本を二冊に改装し、第二冊、第四冊の元表紙を使用。原態はbを参照)。四周単辺(下層一四・三×一六・六糎、上層高さ九・一糎)、本文十三行、仮名序十二行、真名序十一行。句読点濁点等なし。真名序に返点送仮名振仮名を付す。版心白口「古今巻一(—六、本来六冊本の冊数)　○(丁付)」。頭注の形式は、仮名序は本文右傍にいろは(陰刻)の記号を付し、上欄の注と対照させ、本文は歌番号(巻毎に改める)を付し、上欄で一首ごとに注を加える。真名序には注がない。刊記、終丁ウ真名序の次に界線を隔てて「万治三庚子年五月吉辰／本屋七兵衛板行」。

〔備考〕本書には注者の署名はないが、『寛文十年刊書籍目録』以下「西道智作」とする。

『国学者伝記集成』所引『諸家人物誌続編』によれば、西道智は「名ハ道智、宗菴ト称ス。初メ医ヲ業トス。後ニ我邦ノ記伝ヲ読テ、貴紳ニ遇セラレ、遂ニ業ヲ改テ典詁、有職ヲ講究ス。寛文中ノ人ナリ。」とある。著書に『保元物語大全』『平治物語大全』『太平記大全』『徒然草金槌』等がある。なお、本書の注は大部分『古今和歌集両度聞書』の要約であるが、若干独自の解もある。

b国会図書館蔵(八五七—五五)

万治三年刊(後印)〔京〕谷岡七左衛門　大六冊

濃灰色表紙左肩題簽「(首書)古今和哥集序一」(第二冊以下は、それぞれ「三四五」「六七八九十」「十一十二十三十四」「十五十六十七」「十八十九二十」)。刊記、aの「本屋七兵衛」を削り、「谷岡七左衛門」と入木。

〔所在〕静嘉堂文庫(八二—一〇)、書陵部(鷹—四七二)、国文学研究資料館(一二—一三二)、京都大学文学部文学科(国文学EcI—九)、ノートルダム清心女子大学付属図書館(B二二黒川本)

3寛文三年刊本

a静嘉堂文庫蔵(三一五—二)

寛文三年刊　大二冊

正保版二十一代集中に補配改装。青色地花卉文様表紙左肩子持枠書題簽「廿一代集古今集上(下)一(二)」。無辺無界十二行。印面高さ約二一・三糎。句読点濁点等なし。柱刻なし。刊記、終丁

オ「寛文三稔癸卯初冬吉日　新板」。

〔備考〕　国文学研究資料館のマイクロフィルムによる和歌山大学付属図書館真砂町分館紀州藩文庫本は原装で、表紙左肩に「古今和歌集上（下）」の題簽がある。

〔所在〕　香川大学神原文庫（九一一、一三五一―㊀）

b京都大学文学部文学科蔵（国文学EcI―一二）

〔寛文三年〕刊（後印）　大二冊

栗皮表紙中央茶色題簽「新板古今和歌集上（下）」。刊記なし。

〔備考〕　aの後印本。次項c参照。

c竜谷大学大宮図書館蔵（九一一、二三―三五）

上冊〔承応三年以前〕刊（修）　下冊寛文三年刊　大二冊

縹色表紙左肩題簽「古今倭歌［　］」「古今倭歌集下」。刊記「寛文三稔癸卯初冬吉日」。

〔備考〕　本書は前述1c承応三年以前刊本の上冊に寛文三年刊本の下冊を配して刊行されたもので、aの刊記から「新板」の文字を削っている。本書cの下冊とbの下冊を比較するとbの方が後印である。従ってcの如く「新板」を削って取合せで刊行した後、bの如く刊記を全て削って上下冊寛文三年刊本の後印本の揃いで刊行されたことになる。なおbの題簽は1cで用いられたものと同一である。

4寛文十三年刊本

a国文学研究資料館蔵（一二―六三）

寛文十三年刊〔京〕浅見吉兵衛　小二冊

淡縹色表紙中央題簽剝落。四周単辺（一三・七×九・三糎）、序九行、本文十一行。句読点濁点等なし。真名序に返点送仮名を付す。本文に、定家本の有する傍注あり。版心白口「今上（下、序）　一（丁付）」。奥書「此集家〻所称雖説〻多且任師説又加了見為備後学之証本不顧老眼之不堪手自書之近代僻案之好士以書生之失錯称有識之秘事可謂道之魔性不可用之但如此用捨只可随其身之所好不可存自他差別志同者可随之貞応二年七月廿二日癸亥戸部尚書藤判同廿八日令読合訖書入落字早伝于嫡孫可為将来之證本」。刊記、終丁ウ単郭中に「寛文十三癸丑年孟春吉日／浅見吉兵衛／開板」。

〔備考〕　『古今和歌集』版本はほとんど全て定家の貞応二年本の系統を引くものであるが、貞応の奥書を持つものは珍しく、本書の他には僅かに本書の重刻本である16文化八年刊本、及び26伝嵯峨本を数えるにすぎない。

〔所在〕　香川大学神原文庫（九一一、一三五一―㊁）

b家蔵

〔寛文十三年〕刊正徳四年印　京　河南四郎右衛門　小一冊

淡緑地唐草文様金繡裂表紙（改装）左肩書題簽「古今和歌集」。料紙薄葉紙。刊記、終丁ウ単郭中を縦界線で二分し、「正徳四年龍集甲午正月穀旦／（界線）帝都書房　河南四郎右衛門」。

〔所在〕　京都大学付属図書館（谷村文庫四―二三コ）

c東京都立中央図書館蔵（特一七八五）

〔寛文十三年〕刊正徳四年印　京　野田治兵衛・野田藤八

小一冊（存下冊）

薄茶色布目表紙左肩書題簽「古今和哥集下」。刊記、終丁ウb の「河南四郎右衛門」を削り、「京寺町二条（ママ）ル／野田治兵衛／同二条富小路西へ入／野田藤八」を入木。

d東京都立中央図書館蔵（四一三三—三）

〔寛文十三年〕刊正徳四年印　京　堺屋仁兵衛（尚書堂）

小二冊

淡縹色布目表紙左肩単郭題簽「古今和歌集上（下）」。刊記、c に同じ。更に「尚書堂蔵版書目」四丁を付し、末尾に「京都三条通柳馬場東へ入／書林　堺屋仁兵衛板」と記す。更に追加目録一丁あり。

〔備考〕堺屋仁兵衛が本書を重刻したのが、16文化八年刊本である。

〔所在〕静嘉堂文庫（五一八—一五）、京都府立総合資料館（A和九一一、一三五一—Ko四三、下冊のみ）

5延宝二年刊本

a家蔵

延宝二年刊〔江戸〕松会　大二冊

縹色卍繋唐草文様空押表紙左肩子持枠題簽「新板古今和歌集上（下）」。四周単辺（二二・一×一六・五糎）、序十三—十五行、本文十五—十七行（詞書作者名が歌本文より小字のため行数不定）。句読点濁点等なし。版心白口「古今和歌集巻上（下）一（丁付）」。刊記、終丁ウ「延宝弐甲寅年孟春吉日／松会開板」。

〔備考〕「系統論」に刊年未詳で「松会開板」とある本が掲げられているが、本書で年紀のないものがあるいはあるか。なお、本書には、覆刻として15寛政十年刊本がある。

b静嘉堂文庫蔵（八二—二五）

〔延宝二年〕刊宝暦九年修　江戸　吉文字屋次郎兵衛等

大二冊

正保版八代集中に補配改装。青色地花卉文様表紙左肩子持枠書題簽「古今和歌集木村定良校正上（下）」。a より版心部分上下の界線を削る。刊記、終丁ウ「宝暦九求板／大坂心斎橋南四町目／吉文字屋市兵衛／江戸日本橋通三町目／同次郎兵衛」。

c京都大学付属図書館蔵（四—二三—ヨ—五六）

〔延宝二年〕刊〔宝暦九年〕修　江戸　須原屋四郎兵衛

大二冊

淡縹色布目表紙左肩打付書「古今和哥集上（下）」。刊記、終丁ウ「書林／江戸日本橋南通四町目／須原屋四郎兵衛梓」。

6延宝七年刊本（絵入）

a国文学研究資料館蔵（一二—六〇）

延宝七年刊　京　伊丹屋吉右衛門・鷹羽屋仁左衛門

半四冊（第三冊補写）

茶色改装表紙題簽剝落、第一、三冊左肩打付書「古今和歌集」。第一冊仮名序、巻一—五、第二冊巻六—十、第三冊巻十一—十六、第四冊巻十七—二十、真名序を収めるが、第二冊末一丁及び第三冊は補写。無辺無界、十一行。印面高さ約一八・三糎。絵の丁は単辺（一八・一×一二・九糎）。句読点濁点等なし。柱刻なし。丁付は書脳下部に「上（下）」として示す。絵の丁は

直前の丁と同じ丁付を施す。絵は人物中心で歌人名を明記する。刊記、本文末丁ウ（巻二十と真名序の間）子持枠木記「延宝七年／己未季冬吉辰／押小路柳馬場東〈入町／伊丹屋吉右衛門／魚棚通堀川西〈入町／鷹羽屋仁左衛門／開板」。

〔備考〕丁付より考えて、本来二冊本か。家蔵本は二冊本の上冊のみ。縹色艶出表紙中央茶色子持枠題簽「古今和歌集絵入上」。なお、本書の絵の構図は9享保十四年刊本に踏襲される。

b京都府立総合資料館蔵（和八三一―一〇八）

〔延宝七年〕刊元禄四年印　〔京〕萬屋彦三郎　半二冊

茶色改装表紙左肩子持枠書題簽「古今和歌集」「古今和歌集第十一」。刊記、aの刊記を削り、真名序末終丁ウ、「元禄四辛未年二月吉日　萬屋彦三郎板」。

c岡山大学付属図書館蔵（九一一、一三―一三池田）

〔延宝七年〕刊元禄四年印（後修）〔京〕萬屋彦三郎　大二冊

縹色表紙中央葡萄茶色題簽「古今和歌集上（下）」。刊記bに同じ。ただし仮名序初一丁覆刻、絵は全て欠く。

7天和三年刊本

a慶應義塾図書館蔵（二一四―六八）

天和三年刊　京　丸屋源兵衛・菱屋与平次　大二冊

藍色改装裂表紙中央書題簽「古今和歌集上の巻（下の巻）」。無辺無界、序十三行、本文十四行。印面高さ約二〇・八糎。句読点濁点等なし。柱刻なし。刊記、終丁オ（裏表紙見返貼付）「天和三癸亥年正月吉辰／洛下二条寺町／丸屋源兵衛／菱屋与平次／新刊」。

〔備考〕本書を覆刻したものに、10刊年不明本がある。

〔所在〕国文学研究資料館（サ二―二一）、竜谷大学大宮図書館（九一一、二三―三四）

b静嘉堂文庫蔵（八二―一二）

〔天和三年〕刊正徳三年修　京　瀬尾源兵衛・出雲寺和泉掾　大二冊

淡縹色布目表紙中央題簽「古今和謌集上」「古今和歌集下」。刊記、終丁オ（裏表紙見返貼付）単郭木記中に「正徳三年正月日新発行／京師書房／瀬尾源兵衛／出雲寺和泉掾」。

〔備考〕本書はaに比較して大幅に補刻がある。補刻の箇所は、巻七初め～巻十終り、巻十七途中～巻二十初め、墨滅歌終り一丁～真名序終りの計三二丁。覆刻に近い模刻で、元版より約一糎印面高さが短くなっているので、全体に印面高さの不揃いが生じている。なお、瀬尾源兵衛は丸屋源兵衛に同じ。

8享保二年跋刊本

a国文学研究資料館蔵（一二―七〇）

享保二年跋刊　特小一冊

無地艶出布目緑葉鳥文様表紙左肩打付書「古今和哥集」。四周単辺（七・〇×五・〇糎）、十二行。版心白口「八（巻数）（丁付）」。句読点濁点等なし。真名序末終丁ウに「享保二丁酉年中夏書　□月亭源高〔尋〕」とある。「源高〔尋〕」は誰人か不明。「月」の上の一字も読み難い。「寺」のようにも見える。

〔備考〕13安永九年刊三代集本の『古今集』は本書の覆刻であ

る。

〔所在〕 東北大学付属図書館狩野文庫（四―二八一七〇）

9 享保十四年刊本（絵入）

a 国文学研究資料館蔵（一二―六四）

享保十四年刊　大坂　泉屋卯兵衛　　中二冊

茶色改装表紙左肩打付書「古今和歌集上（下）」。無辺無界、十行。印面高さ約一六・三糎。句読点濁点等なし。版心「古今上（下）〇（丁付）」。仮名序と本文の間に八丁十六図の挿絵あり。構図は6延宝七年刊本により、一部を抜粋。刊記、本文終丁ウ（本文と真名序の間）「享保十四酉歳湯生日／書林／大坂長堀心斎橋北詰／泉屋卯兵衛蔵」。

〔備考〕 刊記のうち「書林」以下字体を異にし、入木である。従って本書は初印ではない。

10 刊年不明覆天和三年刊本

a 書陵部蔵（鷹―二一〇）

刊　謌和智屋等　　大二冊

縹色表紙左肩題簽「古今和謌集上」「古今和歌集下」。無辺無界、序十三行、本文十四行。印面高さ約一九・八糎。柱刻なし。刊記、終丁オ末に、「謌和智屋新刊／京車屋町夷川上ル町／林久次郎／江戸神田元乗物町出店／同源兵衛」。

〔備考〕 7天和三年刊本の覆刻である。印面高さの状態から、おそらく7bでなく7aよりの覆刻と思われる。なお、『歌書綜覧』は、本書を寛文二年刊とする。そのような年紀のあるものは管見に入らないが、もしそうであるとすると本書と7天和三年刊本との関係は、本書が元版で、7が本書の覆刻ということになる。

〔所在〕 静嘉堂文庫（八二―一二）、早稲田大学図書館（へ四―六九七四）、竜谷大学大宮図書館（九一一、二三―一一）、天理図書館吉田文庫（八一―二二）

b 竜谷大学大宮図書館蔵（九一一、二三―二―三四）

刊宝暦九年印　京　梅村三郎兵衛　　大二冊

縹色表紙中央題簽「古今和謌集上大字」「古今和歌集下」。刊記、終丁オ末（裏表紙見返貼付）「宝暦九丁卯歳求之／皇都書林／寺町通松原下ル町／梅村三郎兵衛板」。

c 慶應義塾図書館蔵（二三一―五一）

刊宝暦九年印　京　勝村治右衛門　　大二冊

濃縹色表紙中央題簽「古今和謌集上大字」「古今和歌集下」。刊記、bの「梅村三郎兵衛板」を削り、「勝村治右衛門」と入木。

11 安永八年刊本

a 書陵部蔵（鷹―六五二）

安永八年刊　京　武村嘉兵衛等　　大二冊

茶色布目表紙左肩緑色題簽「古今和歌集上（下）」。見返、金箔散し。無辺無界、八行。印面高さ約二〇・〇糎。句読点濁点等なし。柱刻なし。丁付は書脳下部。真名序に校異あり。真名序末に「武南牕書印」と署名す。「武南牕」は武林南窻。刊記、終丁オ「安永八年己亥秋／平安書林／寺町蛸薬師下ル町／山本平左衛門／二条通柳馬場東入町／林伊兵衛／二条通新町東入町／武村嘉兵衛」。

b書陵部蔵（鷹—三六五）

安永八年刊文政四年修　京　林安五郎等　　大二冊

淡水色表紙中央題簽「古今和歌集上（下）」。刊記、裏表紙見返「安永八年己亥秋開板／文政四年辛巳冬補刻／平安書林／吉田四郎右衛門／同治兵衛／城戸市右衛門／林安五郎」。

〔備考〕両序全ての他覆刻による補刻が多い。

12安永九年刊蚊田蒼生校本

a書陵部蔵（三五一—四五二）

安永九年刊　江戸　前川六左衛門等　　大二冊

淡縹色表紙左肩桜楓文様題簽上冊「古今和歌集上」下冊「古今和□□」。無辺無界、仮名序・本文十行、真名序十一行。印面高さ（頭注は除く）約二〇・二糎。柱刻なし。丁付は書脳下部。表記は、仮名序・本文に濁点、真名序に返点送仮名をそれぞれ付す。校異・頭注あり。真名序の末に蚊田蒼生の跋（二丁半）を付す。その末に「かんなは皆いにしへのかんなに書あらため文字／のたかひは古今集の一本の宣しきにくらへてあ／やまりとしるきは則書あらため或はいつれの／本も聞えかたきには其字かとかたはらにしる／し侍りぬこたひ此本あらたに木にゑり侍るはまた／心もしらぬうなゐ子なとの読ならはんに／みやすく心も得つへき為にとてなれ／は清にこりをもこと〳〵くしるしいさゝか／聞置し事をも所〻しるしたりしを余り／にをこなりとわらひ給ふ人もあらんか／つゝましう南／蚊田蒼生」とある。蚊田（一に荷田に作る）蒼生子は春満の息女、在満の妹、天明六年没、年六十五。刊記、裏表紙見返「安永九年／庚子春／江戸書林／吉文字屋次郎兵衛／北興甚助／前川六左衛門」。

〔所在〕国会図書館（八三七—一三）

b慶應義塾図書館蔵（二三一—三九）

〔安永九年〕刊（後印）　　大二冊

淡縹色表紙左肩題簽「古今和歌集上（下）」。刊記なし。

〔所在〕慶應義塾図書館（八七—三）、国立公文書館内閣文庫（二〇〇—一〇）、書陵部（鷹—二一一）（三五一—四五三）、早稲田大学図書館（ヘ四—七九、八代集に補配）、都立中央図書館（加賀六九七五）、京都大学文学部文学科（国文学EcI—一〇）、岡山大学付属図書館（九一一、一三—一二池田）

c静嘉堂文庫蔵（九一八—一五、二二〇三〇）

〔安永九年〕刊（後印）江戸　須原屋茂兵衛　　大二冊

淡縹色表紙左肩題簽「古今和歌集上（下）」。刊記、終丁ウ単郭木記中に「江戸日本橋通壱町目／須原屋茂兵衛版」。

d家蔵

〔安永九年〕刊天保十三年印　江戸　須原屋茂兵衛　大阪　柏原屋清右衛門　　大二冊

淡縹色布目表紙中央題簽「古今和歌集上（下）」。刊記、裏表紙見返単郭中に『後撰百人一首』『武家百人一首』の広告に読き、界線を隔て「天保十三壬寅歳仲冬吉旦／書肆／江戸日本橋壱丁目／須原屋茂兵衛／大阪心斎橋通順慶町／柏原屋清右衛門」。

e都立中央図書館蔵（井上二一二三）

〔安永九年〕刊（後印）大阪　河内屋茂兵衛　　大二冊

淡縹色布目表紙左肩題簽「古今和歌集上」、下冊は剝落。奥付、単郭中に「書林／京都寺町通仏光寺　河内屋藤四郎／江戸日本橋通壱丁目　須原屋茂兵衛／同弐丁目　山城屋佐兵衛／同弐丁目　須原屋新兵衛／同南伝馬町壱丁目　山城屋政吉／同下谷御成道　英文蔵／同大伝馬町弐丁目　丁子屋平兵衛／同芝神明前　岡田屋嘉七／同　和泉屋吉兵衛／大阪心斎橋筋本町角　河内屋藤兵衛／大阪心斎橋筋博労町角　河内屋茂兵衛版」。

〔所在〕天理図書館吉田文庫（八一―二三）

f 和歌山大学付属図書館真砂町分館紀州藩文庫蔵（国文学研究資料館マイクロフィルム）

〔安永九年〕刊（明治印）大阪明玉堂　二冊

表紙左肩題簽「古今和歌集上（下）」。見返、色紙子持枠中を縦界線で三分し、「蒼先生校正／（界線）古今和歌集／（界線）大阪書肆　岡田群玉堂版」。刊記、終丁ウ木記「江戸書林／原板須原屋茂兵衛／芝神明前／和泉屋市兵衛版」、裏表紙見返奥付「大阪明玉堂蔵版（陰刻、界線を隔て）大阪市東区北久太郎町四丁目廿八番屋敷／岡本仙助／仝南区塩町三丁目四番屋敷／岡本支店／仝東区淡路町二丁目廿三番屋敷／北島長吉」。

〔備考〕岡田群玉堂は河内屋茂兵衛であるが、それ以外の書肆の関係は未詳。

13 安永九年刊特小本

a 京都大学付属図書館蔵（四―二三小別）

安永九年刊　京　植村錦山堂　特小一冊

花卉文様淡縹色裂表紙左肩打付書「新古今和歌集」。料紙薄葉紙。四周単辺（六・九×四・九糎）、十二行。句読点濁点等なし。版心白口「へ（巻数）（丁付）」。真名序につづいて終丁ウ「享保二丁酉年中夏書　□月亭源高〔尋〕」。刊記、裏表紙見返単郭中に「安永九年庚子初春再刻／華洛　植村錦山堂蔵」。

〔備考〕本書は8享保二年跋刊本の覆刻である。後述するように三代集としても刊行されているが、最初から三代集として刊行されたか否かは疑問。

〔所在〕都立中央図書館（加賀六九六六）、国文学研究資料館（一二―七一）、東京大学総合図書館（SE四〇、「三代和歌集」の内）

b 書陵部蔵（鷹―三〇五、三代集の内）

安永九年刊（後印）京　出雲寺文治郎等　特小一冊

淡黄色裂表紙左肩打付書「古今集」。料紙薄葉紙。刊記、aの「植村錦山堂蔵」を削り、「出雲寺文治郎／吉田四郎右衛門／佐々木惣四郎」と入木。

〔備考〕本書と揃いの『後撰和歌集』『拾遺和歌集』は以下の通り。

後撰和歌集

寛政十年刊　京　出雲寺文治郎等　特小一冊

表紙は古今に同じ。四周単辺（六・七×四・九糎）、十二行。句読点濁点等なし。版心白口「へ後上（下）（丁付）」。巻十までを上、以下を下とする。巻末に、奉行文あり。刊記、終丁オ単郭中に「寛政十年午孟夏／皇都書林／出雲寺文治郎／遠藤平左衛門／吉田四郎右衛門」。

拾遺和歌集

寛政十一年刊　京　出雲寺文治郎等　　特小一冊

表紙は古今に同じ。四周単辺（六・八×五・〇糎）、十二行。句読点濁点等なし。版心白口「拾ハ（巻数）（丁付）」。刊記、終丁オ単郭中に「寛政十一年己未初秋発兌／皇都書舗／小川源兵衛／吉田四郎右ェ門／須原屋平左ェ門／出雲寺文治郎」。

なおaに挙げた東大本の『三代和歌集』は、古今は植村版であるが、後撰、拾遺はbの書陵部本と同一である。以上を考え合わせると、初め古今のみ単独で植村が刊行し、板木が出雲寺文治郎等に渡ってから、寛政年間に同体裁で後撰、拾遺が刊行され、揃いで売られるようになり、やがて古今の書肆名も入木されたのではあるまいか。

また、ほぼ同体裁の『千載和歌集』『新古今和歌集』も存在するが、刊記等から必ずしも揃いで発売されたとは断定できない。

国文学研究資料館蔵（一二―二一八）

千載和歌集

文政七年刊　京　出雲寺文次郎等　　特小一冊

藍色裂表紙、題簽なし。料紙薄葉紙。冒頭に仮名序五丁。四周単辺（六・九×四・九糎）、十二行、仮名序に句点濁点あり。版心白口「千序（上・下）（丁付）」。巻二十巻末に「巻第十四／在恋をのみ下逢ことは上／藤原清輔朝臣／露ふかきあさまのらにをかやかる賤の袂もかくはぬれしを／右の哥在異本」とあり。刊記、裏表紙見返、版心のある単郭中に「文政七申年仲秋／皇都書林／吉田四郎右衛門／遠藤平左衛門／出雲寺文次郎」。

国文学研究資料館蔵（一二―二一九）

新古今和哥集

寛政六年刊　京　植村錦山堂　　特小一冊

水色地小松文様裂表紙、題簽なし。料紙薄葉紙。冒頭に仮名序三丁、真名序二丁半。四周単辺（六・九×四・九糎）十二行、真名序十二行十六字。句読点濁点等なし。版心白口「ハ（序・巻数）（丁付、巻毎に改む）」。巻二十巻末に「巻第二　春哥下／題しらす　中納言家持／古郷に花は散つゝ三吉野ゝ山の桜はまた咲(さく)す也／在春雨下花の香に上／題しらす　赤人／恋しくは形見にせんと我宿にうへし藤浪今さかり也／在足曳下かくてこそ上／巻第三　夏哥／時鳥の心を読侍ける／顕照法師／時鳥昔をかけて思(ヤマ)へとや老のね覚に一声そする／在有明下過にけり上／巻第五　秋哥下／題不知　恵慶法師／高砂の尾上にたてる鹿の音にことの外にもぬるゝ袖哉／在妻こふる下深山辺上／右之哥在異本ニ」とあり。刊記、裏表紙見返、版心のある単郭中に「寛政六年甲寅初春刻／華洛　植村錦山堂蔵」。

14刊年不明絵入本

a国文学研究資料館蔵（一二―六一）

刊〔江戸〕須原茂兵衛　　半二冊

縹色表紙中央題簽「古今和謌集□」「古今和歌集下」。無辺無界、十四行。印面高さ約一八・八糎。柱刻なし。丁付は書脳下部。絵は計八丁。構図は6延宝七年刊本及び9享保十四年刊本とは異なる。刊記、終丁オ（裏表紙見返貼付）真名序末「須

原茂兵衛梓」。

〔備考〕 刊年不明だが元禄頃刊か。

〔所在〕 早稲田大学図書館（へ―四三一七）

b東京大学総合図書館蔵（E三一―一四七五）

刊（修）〔江戸〕須原茂兵衛　半二冊

茶色改装表紙左肩書題簽「古今和歌集上（下）」。真名序末と刊記を含む半葉のみ覆刻。その際、真名序の「名曰古今和歌集」「吾道乃再昌」をそれぞれ「名田古今和歌集」「吾道乃再昌（ママ）」と誤刻。刊記、aに同じ。

〔備考〕 本書は改装の際、「千鍾房（須原屋茂兵衛）鐫梓略目録」三丁を真名序中途（終丁の前）に誤綴している。

〔所在〕 斯道文庫（九一一―ト六七、存下冊）

c天理図書館吉田文庫蔵（八一―二五）

刊寛政二年重修　京　菱屋孫兵衛　半二冊

藍色地草花雲形金泥表紙中央濃赤色題簽「古今和歌集上（下）」。刊記、終丁オ「寛政二年戌三月吉日／京都書林／御幸町姉小路上ル町／菱屋孫兵衛求板」。bの仮名序冒頭四丁、真名序終丁（半葉）計五丁を覆刻。前述bの誤刻を正す。

〔所在〕 東京大学総合図書館（E三一―一七七六、存下冊）

15寛政十年刊本

a京都大学付属図書館蔵（四―二三―コ―一一一）

寛政十年刊　江戸　前川六左衛門・大和田安兵衛　大二冊

縹色表紙中央題簽「古今和謌集上」「古今和歌集下」。無辺無界、仮名序十三―十五行、本文十五―十七行、真名序十四行。印面高さ約二二・一糎。句読点濁点等なし。真名序に返点送仮名を付す。柱刻なし。真名序の後に「右ハ者以テ／飛鳥井大納言雅章卿秘事之御点本ヲ正シ写ヌ畢」とある。刊記、真名序末終丁ウ「延宝二甲寅歳三月発行／寛政十戊午年九月重鐫／東都書林／日本橋通三丁目／前川六左衛門／大伝馬町二丁目／大和田安兵衛」。

〔備考〕 5延宝二年刊本の覆刻。但、匡郭・柱刻はなく、真名序は「飛鳥井大納言雅章卿秘事之御点本」なるものによっている。なお本版は明治印に至るまで後印本が頗る多い。

〔所在〕 慶應義塾大学国文学研究室（JL二A―二〇〇）

b東京大学総合図書館蔵（E三一―二四〇九）

寛政十年刊（後印）　大二冊

表紙、aに同じ。真名序を巻頭に置く。従って刊記は仮名序の前にある。刊記、aの「東都書林」以下なし。

c静嘉堂文庫蔵（八二―一一）

寛政十年刊文化九年印　江戸　須原屋伊八　大二冊

表紙、aに同じ。真名序は巻末。刊記、bの刊記の次に「文化九壬申年七月求板　江戸下谷池之端仲町／須原屋伊八」を加える。末尾に「青藜閣蔵版書目録」六丁を付す。

〔備考〕 同刊記で須原屋伊八の住所を「江戸浅草茅町二町目」と改めたものがある。その間の事情は、『慶長以来書賈集覧』に「初代伊八は（中略）下谷池之端仲町に一舗を開き須原屋を称す、（中略）二代伊八の時天保元年十二月火災に逢ひ浅草茅町に移転す」とある。

〔所在〕 都立中央図書館（加賀六九六七）、国文学研究資料館（一二―五七）、蓬左文庫（一―四五）、京都大学付属図書館（四―二三―コ―五）

d早稲田大学図書館蔵（へ四―二二四）

寛政十年刊（明治印）新潟県　弦巻本店等　　大二冊

空色布目表紙左肩子持枠題簽「［　］歌集上」「古今和歌集下」。真名序を冒頭に置く。従って真名序末の刊記（cの浅草茅町版と同一）が仮名序の前にある。奥付、「書肆／新潟県北蒲原郡／葛塚町／弦巻本店／東京芝区三島町／弦巻支店」。

〔備考〕 真名序の位置が同版本中で一定しない例は、23弘化二年刊本、29刊印年不明本にも見られるが、さしたる意味を有するとは認め難い。早稲田大学図書館（へ四―六五六九）は本書と同体裁同刊記だが、真名序末の刊記のうち「江戸浅草茅町二町目／須原屋伊八」の部分を削り、更に後印。

16文化八年刊本

a国文学研究資料館蔵（一二―六五）

文化八年刊　京　堺屋仁兵衛等　　小一冊

紺色裂表紙中央打付書「古今和歌集」。料紙薄葉紙。四周単辺（一三・八×七・一糎、角が丸味を帯ぶ）、仮名序・本文十行、真名序八行。句読点濁点等なし。真名序に返点送仮名を付す。本文に作者注、傍注若干あり。版心白口、下部に「一」。丁付は書脳下部に「上（下）」で示す。真名序の後に定家貞応二年の奥書あり。奥書の本文は3寛文十三年刊本に同じ（送仮名多少の異同あり）。奥書の後に「尚書堂（堺屋仁兵衛）蔵版書目」二丁あり。刊記、裏表紙見返単郭中に「正徳四年龍集甲午正月原板／文化八年歳次辛未之春再板／東都書林／日本橋通三丁目／須原屋平助／帝都書林／寺町通二条下ル町／野田治兵衛／三条通柳馬場東へ入／堺屋仁兵衛」。

〔備考〕 3寛文十三年刊本の正徳四年後印本よりの重刻本。定家の奥書を存するのもその証となる。大きさが縦長の変型であるのは、尚書堂（堺屋仁兵衛）は法帖物を沢山出版しており、本書もその影響を受けたためと思われる。

〔所在〕 家蔵

b慶應義塾図書館蔵（一二一―一三二）

〔文化八年〕刊（後印）　　小二冊

縹色布目表紙、題簽なし。刊記なし。

17文化九年刊本

a国会図書館蔵（二三一―八〇）

文化九年刊　京　鳥籠磐居　　大二冊

無地表紙、題簽なし。大和綴。料紙奉書紙。無辺無界、九行。印面高さ約二〇・一糎。句読点濁点等なし。柱刻なし。真名序を欠き、本文末に「契沖」の署名がある。続いて賀茂季鷹、蓮阿の識語（各半葉）がある。それぞれ、「此古今集全部二冊契沖阿闍梨／墨痕也聊不渉議論者矣／文化元年三月　賀茂季鷹」、「この古今集は円珠庵のひしりの筆なる事は季たか／あかたぬしのおくかきにしるされしことくはた上田餘斎老／人のきはめとてかいつけられしひとひらもありしをそは／ひとのとりて今はなき物からまかふへくもあらさるもの／そかしさるをこたひ

常葉居ぬしのもとめ出られてかゝる／めてたき物をしもひとりひめおかむかあたらしく世にもひ／ろくせまほしとておのれにあとらへのまゝひとつのもしの／たかへもなくうつしにたるをかくすり巻とはせられたる／になむ／百合園蓮阿」。刊記、裏表紙見返「鳥籠磐居蔵板／文化九年壬申冬発行／皇都書林／吉田四郎右衛門／吉田屋新兵衛」。

〔備考〕識語中の人名を検するに次の如し。賀茂季鷹、歌人、賀茂社祠官、天保十三年没、年九十一。契沖関係の著作を所蔵もしくは転写することが多い。上田餘斎老人、上田秋成。常葉居ぬし（鳥籠磐居（トコハヰ））、林国雄か、国学者、宣長門人、天保十年没、年六十（一に文政二年没、年六十二）。蓮阿、川島茂樹、国学者、浜臣門人、天保六年没。本書が真名序を欠く理由は不明。嘉禄本ではない。蓮阿の校注した21文政九年刊本では、真名序に「契沖本」との校異があることを考え合わせても不審。本書が拠った底本が契沖真蹟本であることを疑う向きもあるが、偽筆とする根拠もなく、一応信ずべきであろう。

〔所在〕書陵部（鷹—三六四）、静嘉堂文庫（八二—一一）、早稲田大学図書館（ヘ四—三一二三）、京都大学文学部文学科（国文学EcI—一一）、竟谷大学大宮図書館（九一一、二三—二二）、岡山大学付属図書館（九一一、一三—一六池田）

b三康図書館蔵（竹五—六八）

〔文化九年〕刊天保四年印　京　尚書堂堺屋仁兵衛　大二冊

香色表紙左肩題簽「古今和歌集上」「古今和謌集下」。楮紙袋綴。刊記、終丁オ、単郭中に、『風流文雅双六』等の広告に次いで界線を隔て「天保四季癸巳初稔新鐫／皇都書林／三条通柳馬場東角／尚書堂堺屋仁兵衛」。

18文政元年刊本

a慶應義塾図書館蔵（一二一—二〇三）

文政元年刊　江戸　伊勢屋忠右衛門等　特小一冊

雲母刷肌色表紙、題簽なし。料紙薄葉紙。四周単辺（九・四×六・六糎）、十二行。句読点濁点等なし。版心白口「ヘ（巻数）（丁付）」（丁付は各巻改める）。真名序末に「文化十四丁丑年初秋書　栄松斎圃」と署名する。更に高田与清の跋（一丁半）があり、末に「文化十／四年といふとしの長月のはじめ武蔵のみぬま川に／舟めくらすつかさうけたまはれるをのこ／高田与清しるす」と署名する。刊記、終丁ウ「文政元戊寅年六月再版／書林／京都堀川通高辻上ル／植村藤右衛門／江戸日本橋通一町目／須原屋茂兵衛／同中橋広小路町／西宮弥兵衛／同銀座二町目／伊勢屋忠右衛門」。「伊勢屋忠右衛門」の下に「耕文／堂印」（伊勢屋忠右衛門）の朱印を捺す。

〔備考〕跋によれば、与清は書肆の求めに応じて、推薦したにすぎないようで、本文校訂にかかわっているとは受け取れない。

〔所在〕国文学研究資料館（一二—六七）

b都立中央図書館蔵（特一七八六）

文政元年刊（後修）　江戸　伊勢屋忠右衛門等　特小一冊

藍色改装裂表紙左肩書題簽「古今和哥集」。料紙薄葉紙。見返、子持枠の中を縦界線で三分し「高田与清先生／村田多世子／校正／（界線）掌中古今和歌集／（界線）書林／京師枝玉堂／東武耕文堂／寿梓」。版心部分上下の界線を削り、末尾の与清の跋なし。刊記は裏表紙見返にaと同一のものがあるが別版。

〔備考〕 村田多世子は春海の養女、芳樹と号す、弘化四年没。「枝玉堂」は植村藤右衛門。

〔所在〕 慶応義塾大学国文学研究室（JL二A—三二五）

c 国文学研究資料館蔵（一二—六八）

文政元年刊（後修） 江戸 須原屋新兵衛 特小一冊

灰緑色裂表紙、題簽なし。料紙薄葉紙。見返、黄色紙、bの左枠内を削り、「東都書林 嵩山房蔵」と入木。刊記、裏表紙見返単郭中に「文政元戊寅年六月再版／書林／江戸日本橋通二丁目／須原屋新兵衛」。内容はbに同じ。「嵩山房」は須原屋新兵衛。

19 文政六年刊本

a 東京大学総合図書館蔵（E三一—一五七三）

文政六年刊 京 吉野屋仁兵衛等 大二冊

淡縹色布目表紙左肩題簽「古今和歌集上」「古今和哥集下」。無辺無界、十二行。印面高さ約二〇・五糎。句読点濁点等なし。真名序に返点送仮名を付す。柱刻なし。刊記、終丁ウ「文政六年未三月再刻／皇都書林／吉田四郎右衛門／同治兵衛／吉野屋仁兵衛」。

〔所在〕 竜谷大学大宮図書館（九一一、二三—一八）

b 斯道文庫蔵（ヒ九一一—五〇）

文政六年刊嘉永元年印 京 吉野屋仁兵衛 大二冊

表紙、aに同じ。

見返「改正古仮名／古今和哥集／皇都書肆／松寿亭／積書堂／津逮堂／合梓」。刊記、aの刊記に次いで裏表紙見返単郭中に「嘉永元年戊申初春／諸書物類製本所／皇都書林津逮堂／三条通御幸町角／大谷 吉野屋仁兵衛板」。

〔所在〕 国会図書館（九一一、一三五一—k—y）

c 東京大学総合図書館蔵（E三一—九五三）

文政六年刊（後印）京 林芳兵衛 大二冊

縹色表紙中央黄色題簽「古今和歌集上」「古今和哥集下」。見返白紙。刊記、aの刊記につづいて裏表紙見返単郭中に、広告に次いで「書林／京二条通堺町西へ入町／林芳兵衛」。

20 文政六年刊三ツ切本

a 慶應義塾図書館蔵（八九—一四一）

文政六年刊 京 植村藤右衛門等 大三ツ切一冊

淡縹色裂表紙左肩書題簽「古今和歌集」。四周単辺（六・五×一四・九糎）、本文二十行、序十六行、和歌二行書。句読点濁点等なし。版心白口、丁付は書脳下部。終丁オに大江広海の「古今集奥書」あり。その後半を示すと「植むらのあるしこを袖にせんに／たよりよく事はかりかくゑらせて／これかあやまりたゝしてよと乞けれは／ひとわたりよみもて行まに〳〵仮字／のみいにしへのにあらたむなほあらた／めぬへくおもふところ〳〵なきにしも／あらねともと貞応の本もてうつし／ためれはさの

みなにかはとて／さしおきつ／文政六年末十二月／大江広海」。大江広海は歌人、村田春海門人、天保五年没、年六十六。終丁ウに「優々館主／源よしたゝ摸書」。「源よしたゝ」は未詳。刊記、源よしたゝの署名に続き「文政六ひつしの冬／刻成／江戸書林／須原屋茂兵衛／大阪同／柏原屋清右衛門／京師同／須原屋平左衛門／同／植村藤右衛門」。

b国文学研究資料館蔵（一二—六六）

文政六年刊（後印）京　出雲寺文治郎等　大三ツ切一冊

無地布目表紙左肩赤色地単郭題簽「古今和哥集全」。見返、赤紙。料紙楮紙。刊記、aの内「須原屋茂兵衛」「柏原屋清右衛門」の二書肆を削り、その箇所に「京都三条通高倉／東入書鋪松栢堂／出雲寺文治郎／製本発兌記章」の朱印を捺す。

21文政九年刊本

a斯道文庫蔵（シ三二D—二）

文政九年刊　大阪　秋田屋太右衛門等　大二冊

香色地花卉唐草文様布目表紙中央題簽「校本古今和歌集上（下）」。無辺無界、十一行。印面高さ（頭書を除く）仮名序・本文約一六・八糎、真名序二一・五糎。仮名序・本文に濁点、白抜句点、真名序には返点送仮名を付す。柱刻なし。丁付は書脳下部。上欄に頭書あり。終丁ウに蓮阿の跋あり。以下の如し。「此集今古学の先達契沖阿闍梨加茂翁鈴のやの大人など／のたゞしおかれたる本によりてものしぬ（中略）仮字はた清濁はいにしへにしたがひあ／らためぬ其ほかかしらにかきしことゞもをはじめすべておのがさ／かしらことはひとつもまじへずなむ／文化の九とせといふ年の長月　蓮阿しるす」。刊記、裏表紙見返「官許文化十年癸酉仲秋／文政九年丙戌仲春発兌／書肆／江戸／須原屋茂兵衛／前川六左衛門／大阪／敦賀屋九兵衛／秋田屋太右衛門」。なお真名序の次に「文海堂（敦賀屋九兵衛）蔵書予題目録」一丁あり。

〔備考〕蓮阿については17文化九年刊本参照。頭書は、仮名序・本文では主として注釈、真名序では主として『本朝文粋』・「契沖本」との校異をしるす。蓮阿の跋年紀及び官許の年紀と発売の年紀が隔っている理由は不明。本書を後印本とする根拠もない。

〔所在〕国会図書館（九一一、一三五一—k—a）、都立中央図書館（加賀六九六八）（特一七九〇）、東京大学総合図書館（E三一—一五八六）、京都大学文学部文学科（国文学EcI—一三a）（国文学EcI—一三c）、京都府立総合資料館（和八三一—一四八）、岡山大学付属図書館（九一一、一三—一一池田）、川越市立図書館（貴—八七）

22文政十三年刊本

a国文学研究資料館蔵（サ二—二）

文政十三年刊　京　朝倉儀助・出雲寺文次郎　大二冊

縹色表紙中央黄色題簽「古今和謌集上」「古今和歌集下」。無辺無界、本文十四行、序十三行。印面高さ約二〇・七糎。句読点濁点等なし。柱刻なし。刊記、終丁ウ「正徳三年正月日新発行／文政十三年五月日再刻／京師書房／朝倉儀助／出雲寺文次郎」。

〔備考〕 7b天和三年刊正徳三年修印本の覆刻だが比較すると、仮名づかいを改めた点がある。なお国会図書館本は同体裁、同刊記で裏表紙見返に「小林（須原屋）新兵衛」の広告を貼付する。

〔所在〕 国会図書館（一四一―五九、正保版八代集に補配）、岡山大学付属図書館（九一一、一三―一〇池田）

b家蔵

文政十三年刊　大坂　敦賀屋九兵衛　　大二冊

縹色布目表紙左肩題簽「古今和歌集上」「古今和哥集下」。刊記、aの他に裏表紙見返単郭中に「三都／発行／書房／京都寺町本能寺前／銭屋惣四郎／江戸日本橋一丁目／須原屋茂兵衛／同浅艸茅町／須原屋伊八／同芝神明前／岡田屋嘉七／同日本橋二丁目／山城屋佐兵衛／同芝神明前／和泉屋吉兵衛／同横山町一丁目／出雲寺万次郎／大坂心斎橋南一丁目／敦賀屋九兵衛版」。

〔備考〕 表紙題簽は正保四年刊二十一代集中のものと同一である。

c慶應義塾大学国文学研究室蔵（JL二A―三二四）

〔文政十三年〕刊〔明治〕修　大阪　嵩山堂青木恒三郎

大二冊

水色布目表紙左肩赤地単郭題簽「古今和歌集天（地）」。見返、赤地子持枠中を縦界線で三分し「奉勅選紀貫之／（界線）古今和歌集／（界線）浪華書肆　嵩山堂出版」。真名序末の半葉（終丁）を補刻。裏表紙見返単郭中に、奥付「和漢洋書籍出版所／発行者／大阪市東区博労町四丁目廿六番屋敷／青木恒三郎／製本発売所／大阪市心斎橋筋博労町／嵩山堂本店／仝／東京市日本橋区通壱丁目／嵩山堂支店／仝／伊勢国三重郡四日市港竪町／嵩山堂分店」。

d家蔵

〔文政十三年〕刊〔明治〕修　大阪　桜園書院　　大二冊

藍色布目表紙左肩単郭題簽「古今和歌集天（地）」。見返白紙。刊記、裏表紙見返子持枠中を縦界線で二分し「桜園書院蔵版／（界線）大阪市東区伏見町五丁目／二番地／発行者　藤原久吉郎／大阪市東区伏見町五丁目／二番地／発行所　桜園書院」。

〔所在〕 斯道文庫（九一一―ト三）東北大学付属図書館（九一一―八一二）。二者ともに更に後印で、家蔵本の刊記中の住所を入木し各々「大阪市南区天王寺堂ケ芝町／百番地」「大阪市南区天王寺／堂ケ芝町百八番地」と改める。

23弘化二年刊本

a国立公文書館内閣文庫蔵（二〇〇―六）

弘化二年刊　江戸　青雲堂英屋文蔵　　小二冊

縹色布目表紙左肩単郭題簽「古今和歌集上（下）」。見返、単郭の中を縦界線で二分し「古今和歌集　中本二冊／（界線）此書梓行のもの世に多しといへとも仮名／正しき本すくなし今其仮字を正し諸本／を校合しかつ易簡を専として／小巻にものす／弘化二年 初冬／東都書林／下谷御成道／青雲堂梓」。四周単辺（一四・九×九・七糎）、十一行。仮名序・本文に濁点・白抜読点、真名序に返点送仮名を付す。版心白口下部に丁付「上（下、序）（丁付）」。刊記、裏表紙見返単郭中に「天保十五辰六月

山嵜久作校正／御成道柳原岩井町代地／英屋文蔵」。「山嵜久作」は山崎美成、安政三年没、年六十一（一に文久三年没、年六十七）。

〔備考〕本書は「天保十五年刊弘化二年印」とも考えられるが、天保十五年は校正年次と考え、「弘化二年刊」とした。

b早稲田大学図書館蔵（ヘ四—六五七八）　小一冊

弘化二年刊（後修）江戸　金花堂

縹色布目表紙左肩書題簽「古今和歌集　全」。見返、黄色紙、aの「下谷御成道／青雲堂」を削り、「金花堂」と入木。真名序を巻頭に置き、版心部分上下の界線を削る。巻末に「金花堂（須原屋佐助）蔵板目録」十七丁を付す。刊記なし。合綴本ではなく、最初から一冊本と思われる。

〔所在〕国会図書館（一九九—一三四、二冊本で存上冊）

c東北大学付属図書館蔵（九一一—四二二）　小二冊

弘化二年刊（後修）明治二年印　江戸　金花堂須原屋佐助等

縹色布目表紙左肩濃赤単郭題簽「古今和歌集上（下）」。以下bに同じ。但し「蔵板目録」なし。刊記、裏表紙見返単郭中に「嘉永四年亥五月新刻／明治二年巳三月再刻／東都／書林／日本橋通壱丁目　須原屋茂兵衛／浅草茅町弐丁目　須原屋伊八／横山町三丁目　和泉屋金右衛門／芝神明前　和泉屋市兵衛／同所　岡田屋嘉七／同所　和泉屋吉兵衛／通弐丁目　山城屋佐兵衛／銀座三丁目　山城屋政吉／日本橋通四丁目／金花堂　須原屋佐助蔵梓」。

〔備考〕刊記中に「嘉永四年亥五月新刻」とあるが、嘉永四年は刊年ではない。

〔所在〕慶應義塾大学国文学研究室（JL二A—三四一）

24 安政三年刊本

a国文学研究資料館蔵（一二—七三）　中二冊

安政三年刊　京　芳樹園

青色地花卉文様空押表紙左肩題簽「古今和歌集上（下）」。見返、単郭の中を縦界線で三分し「古今集の梓行多しと雖ともかな違ひ多く／して初心の誤れる事少からす今此書は北村／氏の抄本居か遠鏡契仲（ケイチュウ）か抄等を輯合し／旁に異同をしるしたる善本なり／（界線）古今和歌集／（界線）皇都　芳樹園蔵」とする。真名序・仮名序・本文の順とする。四周単辺（一三・八×九・四糎、四周丸くする）、仮名序・本文十一行、真名序九行。仮名序・本文に濁点、真名序に返点送仮名を付す。版心「〇古今集　〇（丁付）」。刊記、裏表紙見返、単郭中を縦界線で二分し「此次に後撰集を出すべし拾遺集より／標注し八代和歌集と全部すべし／（界線）安政三年丙辰新鐫／皇都　芳樹園蔵」。

〔備考〕「芳樹園」は誰人か未詳。なお、本書と揃いの『後撰集』以下が刊行された様子はない。

b都立中央図書館蔵（四一五—三〇）　中一冊（存下冊）

〔安政三年〕刊安政四年印　京　出雲寺文治郎等

淡縹色布目表紙左肩子持枠書題簽「古今和歌集」。刊記、裏表紙見返、単郭中を二分し「芳樹園校本／（界線）安政四年丁巳

秋／江戸書林　山城屋佐兵衛／大阪書林　河内屋和助／永田調兵衛／俵屋清兵衛／京都書林　升屋勘兵衛／堺屋仁兵衛／山城屋佐兵衛／須原屋平左衛門／林芳兵衛／出雲寺文治郎」。

〔備考〕下冊のみのため全容不明。下冊に序はない。両序はaの如く巻頭にあるか。

c 京都府立総合資料館蔵（A和—九一一、一三五一—ko四三）

〔安政三年〕刊（後印）京　八弘舎　　中一冊（存上冊）

縹色表紙左肩黄色題簽「古今和歌集上」。見返aと同一だが、「芳樹園」を削り「八弘舎」と入木。

〔備考〕上冊のみのため全容不明。仮名序、巻一—十を収めるので、真名序は下冊巻末か。いずれにしても、版本の場合、真名序の位置の違いにさしたる意味は認め難い。明治印か。

25 明治十八年刊本

a 京都大学付属図書館蔵（四—二三小）

明治十八年刊　東京　江島伊兵衛　　特小二冊

淡縹色布目表紙左肩単郭題簽「古今和歌集（蚊田蒼生校訂）上（下）」。見返、赤色紙単郭中を三分し「奉勅選（ママ）　紀貫之／校訂　蚊田蒼生／（界線）古今和歌集／（界線）東京／書肆／白楽圃梓」。四周単辺（九・〇×五・九糎）、本文十四行、序十三行。仮名序・本文に濁点・白抜読点、真名序に返点送仮名を付す。版心白口、下部に「上（下）（丁数）」。作者名を歌の下に書く。真名序の後に蚊田蒼生の跋（一丁半）あり。奥付、単郭中を縦界線で二分し「延喜五年四月十八日出版／明治十八年九月廿日反刻御届／（界線）奉勅　選者故人紀貫之／校訂者故人蚊田倉生（ママ）／原版主／大坂府平民／岡田茂兵衛／出版人／東京府平民／江島伊兵衛／日本橋区通四丁目十番地」。

〔備考〕本書は12安永九年刊蚊田蒼生校本の重刻本である。注記、跋等全てそれを踏襲している。刊記中に見える「岡田茂兵衛」は河内屋茂兵衛のことで、12ｅｆの段階で既に蚊田蒼生校本の版権は河内屋茂兵衛に移っていることが確認できる。なお本書の『古今集』に『後撰集』『拾遺集』を付け加え、三代集として明治二十二年に刊行した後印本がある。付け加えた二集は蚊田蒼生校本ではない。以下の如し。

早稲田大学図書館蔵（へ四—三一三二）

和歌三代〔集〕（鉄外題）

明治十八年刊（古今）　明治二十二年刊（後撰・拾遺）

東京　江島伊兵衛　　特小三冊

古今和歌集

料紙薄葉紙で一冊本となり、題簽の「上（下）」を「全」とした他は全て前に同じ。奥付もそのまま。

後撰和歌集

淡縹色布目表紙左肩単郭題簽「後撰和歌集　全」。四周単辺（八・九×五・九糎）、十五行。句読点濁点等なし。版心白口「後撰上（下）（丁付）」。和歌の作者は和歌一行書の下に小字双行で書く（『拾遺集』も同じ）。奥付、単郭中を二分し「文化八年九月中元版出版／明治廿二年九月廿五日印刷／同年十月三日出版／（界線）奉勅撰者／大中臣能宣／清原元輔／源順／紀時文／阪上望城／発行者／東京府平民／江嶋伊兵衛／日本橋区通

四丁目十番地／印刷者／同／江嶋鴻山／京橋区築地壱丁目八番地」。

拾遺和歌集

淡縹色布目表紙左肩単郭題簽「拾遺和歌集　全」。四周単辺（八・九×六・一糎）、十四行。句読点濁点等なし。版心白口「拾遺上（下）　（丁付）二」。奥付、単郭中を二分し「貞享二年二月元版出版／明治廿二年七月十日印刷／同年同月十五日出版／（界線）奉勅撰者／故人／藤原公任／発行者／東京府平民／江嶋伊兵衛／日本橋区通四丁目十番地／印刷者／同／江嶋鴻山／京橋区築地一丁目八番地」。

〔所在〕（古今集のみ）早稲田大学図書館（へ四特―七〇）、国文学研究資料館（一二―六九）、都立中央図書館（特一七八七、存下冊）

更に同一体裁の『新古今集』も存在する。

国文学研究資料館蔵（一二―二四六）

新古今和歌集

明治二十四年刊　東京　江島伊兵衛　　特小二冊

淡縹色布目表紙左肩単郭題簽「新古今和歌集　上（下）」。見返、赤地単郭中を縦に三分し「奉勅撰者／源通具／藤原有家／藤原定家（以上三名上段）／藤原家隆／藤原雅経（以上二名下段）／（界線）新古今和歌集／（界線）東京書肆　白楽園梓」。冒頭に真名序（一丁半）仮名序（二丁半）あり。四周単辺（九・〇×五・九糎）、真名序十行、仮名序十三行、本文十五行。真名序に返点送仮名振仮名あり。版心白口「新古今　上（下）（丁付）二」。和歌の作者は和歌一行書の下に小字双行で書く。奥付、単郭中を二分し「元久二年三月元版出版／明治廿四年九月一日印刷／同年九月五日出版／（界線）奉勅撰者／源通具／藤原有家／藤原定家／藤原家隆／藤原雅経／発行者／東京府平民／江島伊兵衛／日本橋区通四丁目十番地／彫刻者／江島鴻山／京橋区築地壱丁目十八番地／印刷者／金子寅次郎／京橋区南槇町十三番地」。

以上は刊記中に何らかの年紀を留める版である。以下は全く年紀のない版を列挙する。

26 刊印年不明伝嵯峨本

a 慶應義塾図書館蔵（一〇九―八一）

刊　　大二冊

丹表紙左肩題簽「古今和歌集上（下）」。無辺無界、九行。印面高さ約二〇・七糎。句読点濁点等なし。柱刻なし。巻末終丁オよりウにかけて定家の貞応二年七月の奥書あり。この奥書を**3**寛文十三年刊本の奥書と比較すると、「道之魔性」を「道之魔姓」、「藤判」を「藤在判」とするのみで他は全て同じ（但、返点送仮名なし）。

〔備考〕本書は整版であるが、嵯峨本と通称される。その理由は筆者が光悦と伝称されているためである。真偽は不明。いずれにしろ本書は『古今集』版本中、刊行が最も遡るものであることはほぼ間違いない。

〔所在〕国会図書館（八三一―一七）（八五七―五七）、国文学研究資料館（一二―五六）（サ二―一三）、都立中央図書館（特

一七八三）（特一七八四、存下冊）、早稲田大学図書館（へ四特—五二八四）、書陵部（鷹—三七六）、竜谷大学大宮図書館（九一一、二三—三三）

27刊印年不明本

a国文学研究資料館蔵（一二—一四三）

刊　大合一冊

卍繋花卉文様空押丹表紙左肩雲紙書題簽（元題簽の上に貼付）「古今和歌集全」。無辺無界、十行。印面高さ約二〇・二糎。句読点濁点等なし。柱刻なし。刊記なし。

〔備考〕刊年不明だが、比較的早い時期の刊行と思われ、26伝嵯峨本には及ばないが、1承応三年以前刊本より遡るかもしれない。なお28刊印年不明本は本書の覆刻である。

b蓬左文庫蔵（一—四四）

刊（後印）京　上村次郎右衛門　大二冊

縹色表紙左肩書題簽「古今和歌集上（下）」。刊記、真名序に続き終丁オ「二条通玉屋町／上村次郎右衛門新刊」。

〔所在〕書陵部（葉—一六八七）

c国文学研究資料館蔵（一二—五八）

刊（後印）京　辻勘重郎　大合一冊

縹色艶出表紙中央題簽「古今和歌集上」。刊記、真名序に続いて終丁オ「洛陌書肆／辻勘重郎新彫」。

〔所在〕書陵部（二六六—二七）

d竜谷大学大宮図書館蔵（九一一、二三—二一）

刊（後修）京　野田治兵衛　大二冊

淡縹色表紙中央黄色題簽「古今和歌集上（下）」。刊記、裏表紙見返、真名序に続いて「京寺町押小路橘屋／野田治兵衛」。

〔備考〕仮名序冒頭半丁、巻二・巻四に各二丁、覆刻による補刻あり。

〔所在〕家蔵。

28刊印年不明本

a香川大学神原文庫蔵（九一一、一三五一—㊄）

刊　大二冊

濃縹色卍繋空押表紙、原題簽。無辺無界十行。印面高さ約二〇・二糎。句読点濁点等なし。柱刻なし。刊記なし。

〔備考〕27の覆刻本。

29刊印年不明本（真淵考正宣長再訂本）

a書陵部蔵（一五一—一五〇）

刊　江戸　金花堂須原屋佐助　半二冊

縹色布目表紙左肩黄色単郭題簽「古今和歌集新校正上（下）」。見返黄色紙「賀茂翁考正／古今和歌集／鈴屋翁再訂」。四周単辺（一八・〇×一二・八糎）、十四行。仮名序・本文に濁点、真名序に返点送仮名を付す。版心白口「古今和歌集巻一（—二〇）一（丁付）」。真名序、仮名序、本文の順。末尾に「金花堂（須原屋佐助）蔵板目録」六丁あり。

〔備考〕賀茂真淵は『古今和歌集打聴』等において大胆な本文整定を行なっているが、本書には、その点はほとんど反映されていない。わずかに、巻七の巻末にある藤原定国四十賀屏風歌（三五七—三六三）に作者が記載されている点が通行本と異な

る程度である。なおこの作者名は本書だけではなく、21にも記載され、12 19 23 25では「イ」として書き入れられている。また真名序を巻頭に置くことに意味があるか否かは不明。

〔所在〕 書陵部（一五〇―五三五）（一五一―二三六）（一五一―二三七）（一五四―二五五）

b都立中央図書館蔵（特一七九三）

刊〔明治〕印　東京　金花堂中村佐助　半二冊

aに同じ。ただし題簽赤色。巻末に広告二丁末尾に刊記「東京日本橋区通四丁目七番地／書肆　金花堂　中村佐助」。

c早稲田大学図書館蔵（へ四―一五三八）

刊　半二冊

縹色布目表紙中央単郭題簽「古今和歌集新校正上（下）」。見返白紙。真名序は巻末に置く。刊記なし。

〔備考〕 bの方がcよりむしろ後印と思われるが、体裁はab相近いので、その順に記述した。

〔注〕

以下に、本稿で扱った諸版と福井久蔵氏『大日本歌書綜覧』及び西下経一氏「古今集伝本の系統論」に掲げられたものとの対応を一括して示す。

大日本歌書綜覧

嵯峨本古今集（26）　慶長版（不詳。「八代集本。」とある）　阿南板（未見。「出板年代不詳。奥に阿南四郎右衛門板とあり。」とある。「阿南」は「河南」の誤か）　寛永板（不詳。あるいは27か）　正保板（正保四年刊二十一代集。本稿では扱わず）　万治板（2）　寛文板（10カ。「寛文二年詞和智屋にて新刻せるもの。」とある）　延宝板（5a）　天和板（未見。「中本。」とある）　二十一代集本（刊年不明小本二十一代集か。本稿では扱わず）　正徳板本（7b）　古今集（4bcd）　絵入本（14ab）　宝暦板本（5b）　享保板本（13a。「柘植板。」とあるは不審。「植村板。」の誤か）　蒼生子校本（12・25）　真淵打聴本（本稿では扱わず）　寛政重刻本（15）　文化八年板本（16a）　契沖刻本（17a）　蓮阿校本（21）　同小（未見。21と同内容の小本一冊は未見）　文政再板袖珍本（18bc）　三切横本（20a）　中形三代集本（嘉永六年刊。本稿では扱わず）　中形安政薄葉本（24b）

古今集伝本の系統論（「x代集本」の項は省略）

○大本

刊年未詳（26）　承応三年版（1b）　寛文三年版（3）　延宝二年版（15b）　同（15c）　正徳三年版（22a）　同（10a）　同（22c）　文化十年版（21）　同（未見。「二冊、右と同じ、寛政八年三版か、大坂秋田屋・敦賀屋、校本とあり」とある）　文政六年版（19a）　刊年未詳（未見。「二冊、松会開版、框、柱あり」とある。5と同版であろう）　同（5c）　刊年未詳（27c）　刊年未詳（12b）

○中本

刊年未詳（未見。「二冊、江戸万笈堂」とある）

○絵入本

刊年未詳（14ab）　享保十四年版（9）

○小本

弘化二年版（23b）　安政三年版（24a）

○特殊な形式

文政六年版（20）　明治十八年版（25）

○特殊な内容をもつてゐるもの

寛文十三年版（4a）　嘉永六年版（三代集。本稿では扱わず）

○雑

古今和歌集類題（本稿では扱わず）　首書古今和歌集（2）　古今集真名字解（本稿では扱わず）

〔付記〕　本調査に際し、御所蔵の図書の閲覧・複写を許された諸文庫・機関に深く感謝の意を表する。なお、本稿はトヨタ財団研究助成金による調査結果の一端である。

古今和歌集版本一覧表

		刊年	印(修)年	書肆	書型	本文	備考
1	a				大		
	b	〔同〕	承応三	京　西村又左衛門	同	12	
	c	〔同〕	延宝六修	唐本屋喜右衛門	同	同	匡郭なし
2	a	万治三		〔京〕本屋七兵衛	大	13	首書本
	b	同		〔京〕谷岡七左衛門	同	同	同
3	a	寛文三			大		
	b	〔同〕			同	12	
	c	同			同	同	上冊は1cに同じ下冊は3aの後印
4	a	寛文十三		〔京〕浅見吉兵衛	小	11	
	b	〔同〕	正徳四	京　河南四郎右衛門	小	同	
	c	〔同〕	同	京　野田治兵衛・野田藤八	小	同	
	d	〔同〕	同	京　堺屋仁兵衛	同	同	
5	a	延宝二		〔江戸〕松会	大	15～17	
	b	〔同〕	宝暦九修	江戸　吉文字屋次郎兵衛等	同	同	

6	c	〔同〕	〔同〕	江戸	須原屋四郎兵衛
	a	延宝七	元禄四	京	伊丹屋吉右衛門・鷹羽屋仁左衛門
	b	〔同〕	〔同〕	〔京〕	萬屋彦三郎
	c	〔同〕	同（後修）	同	
7	a	天和三		京	丸屋源兵衛・菱屋与兵次
	b	〔同〕	正徳三修	京	瀬尾源兵衛・出雲寺和泉掾
8	a	享保二			
9	a	享保十四		大坂	泉屋卯兵衛
10	a				謌和智屋等
	b	〔同〕	宝暦九	京	梅村三郎兵衛
11	c	〔同〕	同	京	勝村治右衛門
	a	安永八		京	武村嘉兵衛等
	b	同	文政四修	京	林安五郎等
12	a	安永九		江戸	前川六左衛門等
	b	〔同〕		江戸	須原屋茂兵衛
	c	〔同〕		江戸	須原屋茂兵衛・大阪　柏原屋清右衛門
	d	〔同〕	天保十三	大阪	河内屋茂兵衛等
	e	〔同〕		大坂	明玉堂
	f	〔同〕	（明治印）	京	植村錦山堂
13	a	安永九		京	出雲寺文治郎等
	b	同		〔江戸〕	須原茂兵衛
14	a			同	
	b	〔同〕	（修）	京	菱屋孫兵衛
	c	〔同〕	寛政二重修	江戸	前川六左衛門・大和田安兵衛
15	a	寛政十			
	b	同			

6	c	同	同	
	a	半二	11	絵入
	b	同	同	同
	c	大二	同	絵なし
7	a	大二	14	
	b	大二	同	
8	a	特小一	12	
9	a	中二	10	絵入
10	a	大二	14	覆7a
	b	同	同	同
11	c	同	同	同
	a	大二	8	
	b	同	同	
12	a	大二	10	蚊田蒼生校
	b	同	同	同
	c	同	同	同
	d	同	同	同
	e	同	同	同
	f	同	同	同
13	a	特小一	12	覆8
	b	同	同	同
14	a	半二	14	絵入
	b	同	同	同
	c	同	同	同
15	a	大二	15〜17	覆5
	b	同	同	同

| | | |

刊年・印年共に不明の部

26 a	大二	9	同	伝光悦筆嵯峨本		
27 a	大二	10	同			
b	同	同	同			
c	同	同	同			
d	同	同	同			
28 a	大二	10	覆27			
29 a	半二	14	真淵考正宣長再訂			
b	同	同	同			
c	同	同	同			
				京 上村次郎右衛門		
				京 辻勘重郎		
				京 野田治兵衛		
				江戸 金花堂須原屋佐助		
				東京 金花堂中村佐助		